



認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649 <http://rasa-japan.com>

e-mail [info@rasa-japan.com](mailto:info@rasa-japan.com)

郵便振替 口座番号 00890-4-31185 受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan

2019.3  
Vol.30

## RASAも20歳になりました



RASAは、フィリピンに学校建設を始めて20年になりました。活動に応募してくる学生の多くが大学2年生の20歳ですので、感慨深いものがあります。人は成人するまで病気をしたり、怪我をしたり、悩んだり大変こともあって成長しているのです。RASAも20年紆余曲折した道を支援して下さる皆様に支えられ、歩んでまいりました。

### 体質改善と組織充実

RASAも初めは毎年のように活動資金が不足し、今回までか、来年はおしまいかと思いがらの活動もありました。活動資金不足に困っていました。

2011年には予定していた日本の外務省の「草の根支援」が、都合でいただけなくなりました。学校とはすでに500万円で教室を建てる契約になっていて困りはてました。手持ち資金は200万円しかありません。

300万円も不足です。当時の役員の方々に100万円単位でご支援をいただき、事なきを得ました。今思えば、その年のホームステイ費としてホストファミリーに支払う費用を一日当たり5ドル削らせていただいた思い出があります。その代わりに、ボランティアにはみじめな食事内容となりました。

この体験をもとに、財務体質を強める必要性を痛感いたしました。

### NPO法人資格取得

ほかにも紆余曲折がありました。単なる活動団体では仲良しグループで終わる傾向があります。

RASAは明確な目標と方針を持ち体質改善をする必要を感じました。その第一歩の目標が社会的な信用を高めるNPO法人にすることでした。平成21年に認可が下りました。でも補助金や助成金がいただけるわけではありません。活動を支援者とともに末永く継続する義務と責任を果たすための自分への戒めでした。

### 認定NPO法人への格上げ

欧米に比べ「寄附の文化」に乏しい日本では、法人も個人も、寄附にはどちらかと云うと消極的です。

認定NPO法人になると何が変わるのか。

極端な言い方で簡単に説明します。

「企業などの法人の場合」・・・利益が出るから税金を少なくしたい。そのため経費処理できる寄附をドンドン増やすことはできません。寄附金には限度が決められているため、あとは税金で持っていかれてしまいます。

ところが、認定NPO法人に対する寄附金は極端な言い方をすれば限度がありません。税金で持っていかれるくらいならドンドン寄附をしようとなるわけです。そうです、納税したと同じ効果になるのです。

「個人の場合」・・・確定申告によってその年に寄付した金額のおおよそ40%が還付されます。戻るのです。

RASAを「寄附金を受けやすい認定NPO法人」にした訳はここにもあります。

このようにRASAは、体質を強化して、永続的な活動を継続したいと考えています。今後とも、どうぞよろしくご支援くださいますよう、お願いいたします。

### ボランティア活動証明書

RASA-Japanでは本年度より次の2件の証明書発行を始めます。

2018年8月「フィリピンにおける栄養失調児童の給食支援のボランティア活動証明書」14名

2019年2月「フィリピンにおける学校建設のボランティア活動証明書」35名

南山大学ドミンゴス教授の助言により実現したものです。参加した学生にとって一生の記念となるようにとA4サイズで額縁に入れました。文面はホームページをご覧ください。<http://rasa-japan.com>

# 2019 学校建設活動報告

2月3日から20日まで18日間ブラカン州パンディーのサン・アントニオ小学校に3教室平屋建ての教室建設を行いました。南山大、椋山女学園大、名古屋女子大、愛知大から35名の学生ボランティアが建設場所近くに一家庭に一人でホームステイし、家族の一員となって異文化や家庭生活を体験しました。

建設作業は砂ふるい、鋼材のペンキ塗装、セメントやブロック運びなど気温30度を超す炎天下の仕事でした。作業スケジュールに従い、6班に振り分けられた学生が汗を流し、作業に励みました。

- 日本語教育4.5.6学年(6クラス/各学年)の生徒を対象に各1時間の日本語授業を延べ6回行いました。
- 休日にはホストファミリーや学校の先生たちとバス4台を貸し切り海水浴に出かけました。交通渋滞を避けるため朝4:30分の出発でしたが、目的地は期待通りのとてもきれいな海でした。泳いだり、ホストさんが用意してくれた食事を食べたりと終日参加者全員で楽しいひと時を過ごしました。
- フィリピンの子供たちはとても人懐っこく好奇心も旺盛。学生の周りにはいつも子供たちが取り囲んでいました。
- ホストファミリーはもちろん、近所の人たちまでボランティア学生をわが子同然に優しく接してくれて、別れの時は見送りの人や学生が涙にっていました。
- 建設活動中の現地をパンディー市長一行が慰労とお礼に来られました。公務の関係で始業前に突然でした。
- 活動の記念に38名全員の手形をコンクリート板に残してきました。校舎完成後は校舎内外に飾られます。
- 帰国前日にマニラ(スモキーマウンテン)見学をしました。以前海だったところがゴミ捨て場となり、そのゴミが小高い山になっていました。今はその山が丘のようになっておりを残しています。そこに住むベッキーさんに案内していただき、昔ゴミの山で換金物を探して暮らしていた人たちが、いまでも生活をしているアパートに入らせて頂きました。現況の悲惨さを垣間見た瞬間、しばらくの間、言葉が出ませんでした。

ONE STOREY 3-CLASSROOM



建設校舎完成予想図



建築中の校舎



ボランティア参加者の皆さん

## 人気のある日本語授業

昨年お世話になったホストファミリー一家が今回の建設地を訪れ、再会を喜び合いました。その家族の小学6年生の長女が、昨年日本の学生から受けた日本語授業に触発され日本語を猛勉強中で、将来日本にも行きたいと語ってくれました。日本語授業がこういった形で発展して子供たちにも影響を与えているのは、学生にとって大きな刺激となり、私たちにとっても喜びひとしおです。



## 帰国反省会

2月25日(月) 南山大学キリスト教センター

ボランティア参加学生皆さんの顔には、再会の喜びと思い出話に笑顔の花が咲いていました。反省会では、学生リーダー主導で活動を振り返ってテーマ毎に意見を述べ合い、来年度のボランティア体験発表やチャリティバザー参加、ボランティア活動参加者募集など、多くの活動の担当者を決定しました。また、参加された皆さんに現地活動の体験を通して考えてほしい「5つのテーマ」の答えをご紹介します。



帰国反省会の様子



建設作業現場



日本語授業の様子

### フィリピンで「人の幸せ」について、どのように感じましたか？

- ・裕福であることが幸せではないと思った。日本より不便で貧しいフィリピンの大人も子供も生き生きとして、幸せそうだった。
- ・家族や人と一緒に過ごす時間を大切にし、毎日笑顔で賑やかだ。それが幸せのように感じた。自分も人と関わることに積極的になっていきたい。
- ・貧しい中、幸せに暮らしている人もいる。しかし、家族が出稼ぎで寂しい思いをしている人や日本への移住を願っている人もいた。すべての人が心豊かに生活できているわけではないと思う。
- ・幸せとはものの豊かさではなく、人と人とのつながりや心の温かさだと思う。笑顔いっぱいでもごせること、家族と一緒にご飯が食べられることなど、日本では重視されない日常がすべて幸せなことだと感じた。
- ・常に自分を大切にしてくれている人がいる、気づかってくれる人がいることが幸せだと改めて感じた。
- ・生活に不便さがなくなると、人とのつながり薄れ、幸福と感ずることが少なくなるのではないかと考えた。
- ・「心の豊かさ」が「人の幸せ」につながると思う。

### フィリピンにあって日本にないもの、日本にあってフィリピンにないものとは、何ですか？ そして、あなたが生きていくうえで「大切なもの」とは何だと思えますか？

日本にないもの	フィリピンにないもの	「大切なもの」とは？
絆、人と人とのつながり	パーソナルスペース	自分が幸せだと感じる事
物を大切にする心	学習環境	順応性
地域コミュニティ	衛生的で安全な環境	人と人とのつながり
ゆとり	情報、技術、発展	将来に対する明るい希望
助け合い、思いやりの心	接客マナー	ゆとり
心の豊かさ	お金	人を思いやる心
温かい心	物、資源の豊かさ	最低限の生活とお金
賑やかな生活	便利、ライフライン	笑顔
人情愛、フレンドリー	静けさ	助け合い、協力へつづく

現在の日本は、便利で不自由のない豊かな生活環境ですが、若者の自殺率が深刻な状況です。「本当の豊かさ」について、どう思いますか？

- 本当の豊かさは、コミュニティが活発であること。地域で子育てを行う環境。
- 時間や人間関係など、心にゆとり、余裕を持てるような社会。
- 人それぞれ豊かさの概念は異なるが、愛だと思う。自分が大切にされていると実感できること。
- 自分が生涯探求していかなければならないと思う。多分、答えは一生見つからないと思う。
- 思いを打ち明け、助け合える環境があること。支えてくれる人がいること。思いやりの心。
- お金の豊かさではなく、心の豊かさが大切だ。物の豊かさに心の豊かさは比例しない。

発展途上国では「絶対的貧困」、先進国では「相対的貧困」が多く、国内でも都市に発展が集中し、地方は過疎化と経済低迷で、ますます格差が広がっています。このような状況をどのようにしたら変えることができると思いますか？また、あなたならどのようなことができますか？

- 地方の特徴や文化の魅力を発信し、それを生かした働きかけをする。地方と都市を結ぶ道路整備。
- 過疎地に若者を呼び戻す必要がある。地元企業への就職。労働環境の提供。地方で起業する。
- 継続的な土地開発で若者が集まり活性化されるような地域づくり。地方に足が向く行事やイベントを開催。
- 難しい問題だが、命を守ることや貧困の人々に対するボランティア活動に参加したい。
- 先進国が発展途上国の現状を知り、助ける姿勢を見せることが格差を縮めると思う。
- 自分ができる活動を探す。
- 地方でしかできないことに重点を置いて、進めたほうが良いと思う。
- フィリピンでの体験、見たこと、感じたことをより多くの人に伝えること。関心を持ってくれる人を増やす
- 目の前の困っている人に寄り添うだけ。

フィリピンでのホームステイの体験を通して、人は何を大切に生きていたと思いますか？また、あなたは何を大切に生きていきたいですか？

- 人と人の繋がり大切さが分かった。自分自身の人間性の向上を目標に、人とかかわり方を大切に生きていこうと思う。
- 助け合いが最も大切だと思う。今回の体験を大切に生きていきたい。
- 何が大切かを考えて行動したい。
- フィリピンの人々は、一日一日を精一杯生きることを大切にしていた。私は、これから人との付き合いを大切に生きていきたい。そして、楽しむことを忘れない。
- 自分の人生に納得できる、それぞれの価値基準に従って生きていくと思う。フィリピンでは、家族や人々の交流に重きを置いている人が多かった。
- 様々な人の意見や考えを大切にし、一つ一つの考えを人生の糧にして、自分の幸せだけでなく、周りの幸せを考える。自分よりも他人を考える気持ちを持つ。
- 思いやりの気持ちを大切に生きていきたい。
- 当たり前のことを当たり前だと思わず、何事にも感謝して真っすぐに生きていく。
- 人と人との関わりが互いを支え、生きていくことに大切だと思った。



お別れ会 <みんなでダンス>



感謝状をいただきました！



お別れの時

フィリピンでの体験は、参加学生の皆さんが日常との予想以上の違いに驚いていました。しかし、帰国後多くの参加学生の皆さんから、「この体験を友だちに紹介したい！」、「また、来年も参加したい！」、「多くの人にこの活動を知ってほしい！」というお言葉をいただき、嬉しい限りです。この体験が、参加していただいた皆さんの人生の糧となり、大きな成長につながると強く感じました。

## シーランド名誉理事長がフィリピンへ転勤されます！



以前から「フィリピンで仕事ができればいいな～」ということはお本人からお聞きしておりました。これまで、フィリピン転勤が実現できそうになると日本の神父不足の現状で中止を繰り返されてきました。昨年12月に、松浦司教さんにお会いした時、「藤井さん！シーランド神父のフィリピン転勤、今度は本物になりましたよ！」とお聞きしておりました。4月に赴任するとのことでした。所属は、マニラ北管区でルソン島の北部アブラ州バンゲッド市。マニラからバスで13時間もかかるところです。しかし、シーランドさんあこがれの地です。5月の役員任期満了に伴い、理事を退任したいとの申し出がありました。関係者の方と協議した結果、「顧問」として名前は残すことになりました。元気で活躍されることをお祈りいたしたいと思います。

## 「ハニーチャイル」 ジョン・シーランド神父著

シーランド神父の幸せでヤンチャな幼児期から青春時代のエピソードがまとめられています。クリスマスプレゼントの話です。

子供たちがサンタと話が出来る様に列ができていました。

やっと僕の順番が来てサンタさんに自分のプレゼント「赤いワゴン車」を頼んだ。サンタは別れ際に「良い子にしているんだぞ！良い子が好きだからね。」と言った。直ぐにお母さんの所に駆け寄りお母さんは「サンタに言われたこと聞いていた？」お母さんは僕に念を押した。

「良い子にしてなさいって言われたでしょう。良い子にしていますって約束した？」

「あっ、忘れちゃった。僕サンタさんに言うてるよ。」

母さんは、大丈夫サンタさんは何でも分かるから。その時から僕はどれくらい良い子になったかは想像が付きまね。日本のどの家庭でも出てきそうな会話ですね。ほっとする様な楽しい本でした。（山本）



## 給食支援児童のクリスマス会 2018年12月13日



お祝いの食事(弁当)とプレゼントを待つ児童



プレゼントを開け喜び合う児童

フィリピンの国は、殆どの人々はクリスチャンで、クリスマスは10月位から街の飾りの準備が始まり、国を挙げての盛大な行事となっています。食事を共にし、プレゼントを交わす習慣があります。この国では、学校給食はなく、RASAが栄養失調児童の給食の支援をしていますが、例年担当の先生は、学校の給食係で作られたクリスマスの御馳走とプレゼントを子供に配ります。今年、先生方の配慮と工夫で大きく変わったのです。

給食支援児童は、学校で恩恵を受けるけれど、家で待つ他の兄弟にはその恩恵が行かないため、中にはそと残して持ち帰ることがありました。子供に食事すら与えられない極貧の親には、御馳走を準備するなど、とてもそんな余裕がないのが現状です。担当のコーディネータの先生はそれを考慮して、昨年来の祝い方を変えました。祝食を弁当にして持ち帰らせ、さらに各自へのお祝いの品に100ペソ(約230円)の現金プレゼントを添えて配りました。写真は学校で祝い品を開けて喜ぶ児童の様子ですが、自分だけでなく自宅に帰ってからも家族と一緒に、喜びを分かち合えることができます。分かち合いを大切にしていこうと導いていかれる先生の素晴らしい配慮がうかがい知りました。その財源は、給食日が毎月20日のところ12月は早くから休暇に入り13日となるため、予算の余剰分を生かして実現されたものです。

## 小さなサンタクロースからのプレゼント

RASAに小さな子どもの字で書かれた寄附金が届き、びっくり！下に吉祥寺教会 後藤神父様の添え書きがありましたので、早速お電話をしてみました。お話をお聞きすると、今回のご寄附にはこんなエピソードがあったそうです。先日、後藤神父様がサンタになって、子どもたちにこう言いました。「みんなは、クリスマスにもらうことばかり考えているからダメだよ。君たちがサンタさんにプレゼントをしてください。サンタさんはね、それで恵まれないかわいそうな子どもにプレゼントを配るんだよ」と。すると、その話を聞いた一人の園児くんが、お母さんに「僕のお小遣いをサンタさんに届けてほしい。」と言って、お小遣い全財産の115円を渡しました。そこで、お母さんが子どもの気持ちにプラスをして神父様に届け、RASAへのご寄附に繋がりました。お話を聞いて、優しく思いやりのある園児くんが、何かをせずにはいられなくなったのでしょうかね。心温まるクリスマスプレゼントをいただき、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

## 活動後もRASAの ボランティアは、強い絆で繋がっています！

### OBの交流親睦会(1月29日)

昨年の同窓会に参加できなかった人も入り、2012ボランティアOB 5人と1家族(3か月と3歳と母)が集い食事をしながら、学生の頃に返って親睦交流。その後社会人としての共通、個々の苦労話や悩み、更に将来の生き方など本音で話し合っって有意義な時間だったようです。瞬く間に時間が過ぎ、再会を願って、また集まることになりました。RASAは家族です。



## RASAから現地への支援送金金額を報告いたします

2019年学校建設費送金合計	6,182,043円
2018年度栄養失調児給食支援費	2,607,469円

### 今後の活動予定

- 3月 グローバルユースデー 16日 国際センター  
(2019年2月の学校建設ボランティア活動の体験発表)
- 5月 定期総会 5月18日(土) 10~13時
- 5月 学生の懇親会 5月4日 バーベキュー大会
- 6月 竣工式
- 7月 フェスタ・ジュニナ(チャリティバザー) トヨタスタジアム
- 8月 スタディーツアー(給食支援)8月25日~9月2日(予定)

**編集後記** RASA-Japanは「フィリピンの恵まれない子どもたち」に絞り込み、学校の教室充実、栄養障害児に給食提供、そうした支援作業のため学生ボランティアの派遣の活動の3本柱にしております。お陰様でどの部門もフルに展開しております。本号はその姿を集約して報告いたしました。これも皆様のご支援のおかげです。今後ともよろしく願いいたします。 (小林)

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています